

FICoN第10回ウェブ検討会 (R6.7.4)

○「中大規模木造建築における国産材の利用促進に向けて」

<講演>

「地域の森林資源と技術で実現する木の建築～事例:京丹波町役場新庁舎～」

NPO法人サウンドウッズ 安田 哲也氏

「太子町新庁舎建設～垂直・水平連携による国産材供給～」茨城県産材普及促進協議会 中村 公子氏

「品質の確かな乾燥材の生産に向けて」石川県農林総合研究センター林業試験場 松元 浩氏

「JAS材供給の課題と展望」森林総合研究所 加藤 英雄氏

<総合討論>

(司会)森林総合研究所 伊神 裕司氏、(パネリスト)上記講師の皆様、

Fukuoka Timber Building Lab代表(株式会社倉掛設計事務所)倉掛 健寛氏

【ポイント】

- ・木材調達ワーキンググループ、木材供給事業者など情報共有と納材の仕組みを構築し、木材先行発注方式により設計の進捗に合わせて無理なく確実に木材を調達。大径原木の製材活用技術開発で林業収益を確保し、町有林の皆伐による木材調達と再造林を実現。
- ・原木、製材・ラミナ、木造建築の各セクションのコーディネーターによる垂直連携と、7,8m材の搬出を含み集材現場と専用土場をつなぐ水平連携により、原木調達の短期化とコストダウンを実現。
- ・品質の確かな乾燥材を生産するため、心持ち材、心去り材といった材種ごとに適正な乾燥条件を採用するとともに、強度低下を招く可能性がある乾燥終了までの高温の採用を避けることが重要。
- ・製材品はJAS格付量が少ないのが実情であるが、中大規模木造建築では含水率や強度特性など品質の確かな製材品が求められており、これらの品質を確保するJAS製材品の普及が望まれる。